

太陽の子

令和8年(2026年) 10月 No.197

秋 の 号

発 行



日立市助川町5-14-8
TEL(23)2620 FAX(33)9150
ホームページ <http://www.taiyonoie.com>
Eメール npo@taiyonoie.com
NPO法人 日立太陽の家
日立重症心身障害児(者)を守る会
日立太陽の家支える会



祝！第1回、鳩が丘マルシェ（ハトマル）開催！笑顔で出迎えたスタッフやボランティアに笑顔で返してくれた来場者さんたち。笑顔の輪が広がって次回に繋がる素敵な初回開催でした。

ハトマル開催!!

ハトマル準備委員会 加藤 晶

先日、鳩が丘さくら福祉センターで「鳩が丘マルシェ」（通称ハトマル）を開催しました。障害がある方もない方も、若い方も年配の方も、いろいろな立場の人たちが地域の中でごく当たり前に交流し合い助け合い、ご近所さんのように寄り添い暮らしていく。まさに「ごちゃまぜ」。ハトマルは、私たちの住むこの街が、もともと「ごちゃまぜ」になっていて欲しいという思いからスタートしました。ハトマル初開催ということで、どうなってしまうかととても不安でしたが、開催日は天気にも恵まれ秋空の下、無事に開催することができ、「おやじバンド」のライブをみんなで「ごちゃまぜ」になって楽しむことができて、本当にうれしく思っています。来てくださったお客様の中には、障害者福祉施設である「鳩が丘さくら福祉センター」に初めて来た・入ったという方もおられて、当施設を知っていただくとても良い機会になったのではないかと思います。鳩が丘さくら福祉センターが、障害者通園施設という場所だけではなく、地域の皆様にとっても憩いの場所となっていくって、みんなが「ごちゃまぜ」に暮らしていくことができたら……、きつとたくさんさんの笑顔があふれる街になっていくのではないかと思います。

ハトマルは、これからも定期的に開催していきたいと思っています。次回開催時には、今回以上の「ごちゃまぜ」になることを目指して、太陽の家の合言葉「笑顔と感謝」で準備をしていきたいと考えておりますので、どうぞよろしく願いします。ハトマルに来てくださったお客様、ご協力いただいた関係者様、本当にありがとうございました。次回も乞うご期待!!!

職員リレー

学びを力に、
より良い支援を目指して

研修委員会
日立市共同生活援助施設 管理者

井下 敦夫

昨年度から法人内に研修委員会を立ち上げ、法人全体で学び合う機会づくりを進めています。これまでは、事業所ごとに研修・勉強会をするとはあっても、法人全体で定期的に学びを共有する場は多くありませんでした。そこで、職員一人ひとりが専門性を高め、日々の支援を見つめ直す機会として、研修や勉強会を継続して開催しています。

研修では、各事業所が持ち回りでテーマを担当し、それぞれの実践事例や支援方法を紹介しています。普段の業務では、経験や慣習をもとに支援を行うことが多くありますが、他事業所の取り組みに触れることで、新しい視点や工夫を知ることができ、自分たちの支援を客観的に振り返るきっかけになっています。また、利用者一人ひとりの思いや生活背景を理解し、その人らしい暮らしを支えるという

福祉の基本理念について改めて考え、職員同士で共有する貴重な時間にもなっています。

研修の目的は、知識や技術を身につけることだけではありません。職員同士が意見を交わし、お互いの経験や考え方を共有することで、支援の質を高め、事業所を超えたつながりを築くことにも大きな意味があります。同じ法人で働いていても、利用者の状況や支援方法は事業所ごとに異なります。その違いを知り、互いに学び合うことで、自分たちにはなかった発想や課題解決の方法に気づくことができ、視野を広げることにつながっています。

福祉を取り巻く環境は年々変化しています。制度改正や関係法令への対応はもちろん、利用者の障害特性や高齢化、医療的ケアなど、支援に求められる内容も多様化しています。そのため、職員には新しい知識や技術を学び続ける姿勢が欠かせません。研修で得た学びを日々の支援に生かすことが、利用者の安心・安全につながり、より質の高いサービスの提供につながるかと考えています。

特に大切に行っているのは、コミュニケーション力、観察力、そしてチームで連携する力です。利用者との信頼関係は、一日で築けるものではありません。日々の何気ない会話を大切にし、表情や行動の小さな変化にも気づけるよう心掛けることが、安心して生活していたための第一歩になります。また、福祉サービスは一人の職員だけで完結するものではなく、サービス管理責任者や相談支援専門員、医療機関、ご家族など、多くの関係者との連携によって支えられています。必要な情報を共有し、同じ目標に向かって支援を進めることが、より良い支援につながると実感しています。

強度行動障害支援者 養成研修を受講して

日立市共同生活援助施設

井口 由佳

つなげることも研修委員会の大切な役割です。職員一人ひとりが学び続ける姿勢を持ち、その学びを実践へと結び付けることで、法人全体の支援力をさらに高めていきたいと思っています。これからも利用者やご家族から信頼される福祉職員を目指し、学びを力に変えながら、より良い支援を提供できるよう努力を続けていきます。

今回、強度行動障害支援者養成研修を受講し、強度行動障害のある方への支援について、改めて深く考える機会となりました。研修を通して、これまで自分が行ってきた支援を振り返るとともに、利用者一人ひとりの行動には必ず理由があるということを改めて学びました。行動の背景には、本人なりの思いや困りごと、伝えたいことがある場合もあり、その理由を理解しようとする姿勢が大切だと感じました。

この行動が起きているのか」という視点を持ち、利用者の気持ちに寄り添うことが重要だと思っています。利用者の特性や強みを理解し、その人に合った関わり方や環境を考えることで、不安や負担を減らし、安心して過ごせるような支援につながると学びました。

また、支援者の都合や思いを優先するのではなく、利用者の意思やペースを尊重することを心掛けたいと思います。一人で判断するのではなく、職員同士で情報を共有し、利用者の様子や変化を確認しながら、チームで支援していくことも大切だと感じました。

今回の研修で学んだことを日々の支援に活かし、利用者一人ひとりの気持ちに寄り添い、行動の背景にある思いや理由を考えながら、その人の特性や強みを大切にしていきたいと思っています。そして、利用者が安心して自分らしく生活できるよう、一人ひとりに合った支援を考え、実践していきたいです。



笑顔と感謝

ひびくらの記

日立重症心身障害児(者)を守る会 顧問 佐藤 芳昭

最近一人の仲間が天国へと旅立った。非常に悲しく、残念でならない。この世には酷い神が居るものだをつくづく思っています。

彼は旅をしながら自ら詩を作るのが趣味で、詩集や時には絵本なども創作したり、短い命であったが、素晴らしき人生だったとおもっています。只々ご冥福を祈るばかりです。

彼の詩集には人とのコミュニケーション、思いやりの心、共に生きる事への喜び等々人として、特に障害を持つ人達に一つの指針を投げかけている様に感じています。

先日、日立重症心身障害(児)者を守る会がこの法人日立太陽の家に協力をお願いして計画された「東京デイズ

ニールランド日帰り観光旅行」の参加者が少なく中止となりました。非常に残念でなりません。私の子供は施設生活をしておりませんが、親は体の都合で参加出来ませんので受けられるサービスを利用しそれ以外は自己負担をしてでも子供が喜ぶのであれば参加させたいと考え施設側と話し合いをしようと思っておりました。

最近の親御さん達は、家族だけでの旅行か、気の合った家族同士での旅行か、どちらにしても、集団での行動を好まない傾向の様に思います。それも一つの考え方であるとは思いますが団体での行事には又別の面からの良さを発見出来ると思っております。私も五十有余年、会のお世話になりながら今があることを思

う時、如何に集団行動が大事だったか、互いの助け合い、思いやり等々精神面で学ぶことが数多くありました。

皆さん、これから会としての行事が色々と計画されることですが、参加出来る様にする為に何を解決すれば良いかを一つ一つ考え、支援を受けたい事柄についてはそれなりの必要な部署と会も含めて相談や話し合いを行い、

出会いに感謝

母子療育ホーム 保護者 山口 美智代

喜一翔は今、支援学校高等部一年生になりました。一才前に急性脳症になり、重度心身障害が子供になってしまいました。当時の私は笑う事さえ罪だと思い、これから先が不安と戸惑いでいっぱい、同じくくらの年頃の子供達を見るのも苦しく、一日の多くを泣きながら生活していました。それでも、いつも変わらぬに喜一翔を大切にしてくれ

る年子の長男がいました。その姿を見ていると、少しずつでも前を向いていかなければと思う様になりました。ホームに通う様になり、たくさんの出会いが私を変えてくれました。先生方の温かい言葉や見守り、そして何よりも、お母さん達に喜一翔の事を話すと、一緒に真剣に考えてくれたり、時には涙を流してくれたり、お互いの悩みや

積極的に参加しようではありませんか。特に子供が飲む行事にはです。在宅介助している家庭では中々思う様な行動を取る事が難しい事でしようが、子供を主にして考える様にし、会全体と共に施設側も含めての対応を考えて行く様にしたいものです。あまり自分の殻に閉じこもらない様にしましょう。

他愛もない話ができる…。同じ子供を育てるからこそ分かります。合える事が嬉しくも思える様になりました。人の優しさや温かさを改めて感じる事ができました。

甥っ子が小さい時に言った言葉がありました。「喜一翔は神だ」と。当時は笑ってありますがどうも思っています。先の見えないトンネルに入ったら私を、一緒に笑い、泣き、励まし合える人達の元へ導いてくれたのは喜一翔だから。

これから先も不安や迷いはあると思います。それでも頑張っていこうと思えるのは、これまでの出会い、支えてくれた、たくさんの方々のおかげです。喜一翔がくれたこの縁をこの先もずっと大切にしながら、周りの方々への感謝を忘れないでいきたいと思っています。

喜一翔は話す事ができないので、笑顔は「ありがとう」を言っていると思ってもらえると嬉しいのです。



スペシャルデーにお祭りを開催、太陽音頭を踊ったりゲームで景品をゲットしたり、思い出に残る一日になりました。(太陽の家)



園外活動でファッションクルーズに行ってきました。おしゃれなお店でのランチに買い物、お土産も買って大満足な一日でした。(ひまわり学園)



食後の楽しみはみんなでカラオケ、主役になりきり熱唱します。みんな上手でみんなが主役です。(グループホーム)



ヒタチエにお出かけ、じゃんけんゲームにお買い物、ドキドキしたけど楽しい一日を過ごしました。(母子療育ホーム)

※写真撮影時のみマスクをはずしています

親元から離れグループホームへ入所、そこから「しいの木学園」に日々通う利用者さんにお話を伺いました

しいの木学園 利用者 古田土 順

お知らせ

◎二〇二六年度

NPO法人日立太陽の家

利用者総数 三百八十二名

男性 二百十九名

女性 百六十三名

ご寄付ありがとうございます
ございました

○次の方から寄付を頂きました(敬称略) 六月～八月

黒澤弘明 とく名

遠藤友義

○次の方から物品の寄贈がありました

(敬称略) 六月～八月

椎名将光 とく名

編集後記

運動会に秋祭り、秋もイベントが盛り沢山、短い秋を楽しみましょう。(K記)